

幸宏社長、東京都新宿区)は1日、東北支店を仙台市青葉区に開設する。営業機能に特化した支店開設は同社初の試みだ。これに伴い、営業機能とデータセンター機能を兼ね備えた既存の福島支店データセンター(福島市)を「福島

ユーザーセンター」に名称変更し、データセンター機能を特化する。東北支店は今後、東北6県を管轄し、販売店やユーザー工場との関係強化を図り、東北エリアにおける営業基盤作りに注力する。

東北支店の陣容は、木内隆幸支店長を中心に、営業スタッフ2人、ユーザー組織であるアウタ会を担当するフィー

で、販売店などに喜ばれる存在を目指し、ユーザー工場との距離を縮めたい」と述べた。

東北支店の所在地は次の通り。

▽宮城県仙台市青葉区一番町2丁目8番10号

に供給を開始した。新たなコーティングメニュー「カーコ」により耐久性や耐熱性、耐薬品性を向上した。パールホワイトやシルバーなどの淡色車向けに訴求する。

親水系コーティングのカーコンアクアガードIIは、ガラス成分を同6割増加するとと

整備新世代

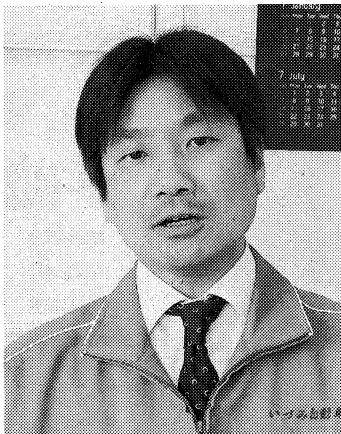
72

車両の高度化が加速している。その中でも乗用車とトラックは動きが違ふ。特に大型トラックは環境対応や情報開示などの問題がある。汎用スキャンツール(外部故障診断機)では対応できないケースも多く、ディーラーでしか整備できない部分が増えつつある。今はマーケットとして成立しているが、今後はアフターが必要なくなる可能性も秘めており、危機感を感じている。

いづみ自動車

さらに大型トラックは、車両の変化の方向性が見えないことも業者にとって不安材料となっている。次世代乗用車はさまざまなメディアで取り上げられる。電気自動車や

田村 圭社長



事業に大きな影響をもたらすことになる。

「物流を止めない」テーマに

「物流を止めない」をテーマに掲げている。そのためには整備作業の効率化が重要になる。大型トラックの整備に求められることは、電子化にできる高い技術力とスピードだ。また、物流を止めないために

「物流を止めない」をテーマに掲げている。そのためには整備作業の効率化が重要になる。大型トラックの整備に求められることは、電子化にできる高い技術力とスピードだ。また、物流を止めないために

トラックの整備は、小型でも、点検入庫や予防整備をどの普及も予測しやすく、事業の方向性も決めやすい。一方、大型トラックはハイブリッドや水素、燃料電池など車両構造がどのように変化するのかまったく見えない。加えて排出ガスの試験方法なども変わっていくだろう。しかもこれらの変化は突然訪れ、た事業を展開する当社では

点検入庫や予防整備をしっかりと

〈プロフィール〉
 たむら 圭 1996年東京都立大(現首都大学東京)卒。スポーツ用品メーカーを経て、98年いづみ自動車入社。2004年常務、09年に義父である先代から社長を引き継いだ。関東トラックモーターリング協同組合では専務理事を務める。1男1女の父、39歳。大阪府出身。

報開示が必要だと思ふ。整備専門業者は以前から接客対応が悪いと言われてきた。しかし今では、接客はできて当たり前になるなど、サービス業としての本質がここ数年でレベルアップした。その中で整備業界には、整備の基本でもある「技術力」を高めることが次のステップとして求められているのではないかと

(浅井 大樹)

自動車整備